

ナミアゲハの育ち方



卵は直径1mmほどの球形です。最初は黄白色ですが、中で発生が進むと黒ずんできます。



ナミアゲハをはじめとするアゲハチョウ属の多くは、ミカン科植物を幼虫の食草としています。交尾が終わったメスの成虫はミカン、カラタチ、キンカンなどのミカン科の木にやってきて、葉の上に一粒ずつ産卵します。



孵化（卵からかえること）した一齢幼虫は、体表に多くのとげがあり、ケムシのような形をしています。



皮を3回ぬいだ4齢幼虫。毛がなくなり、イモムシ形になる。天敵に見つからないように目立たない鳥のふんのような色（保護色）になっています。



緑色になった5齢幼虫。大きな目があり頭も大きいように思いますが、よく見ると本当の目や頭ではないようです。



体の下面に足が一对ずつあり、この足で枝をはさんで、体をささえています。



本当の頭は、小さくて体の先の下面にあります。目や頭を大きく強そうに見せかけて、天敵の目をこまかそうとしているのです。こうゆう見せかけを擬態といいます。鳥のふんのように見せかけているのも擬態です。



5齢幼虫になり1週間ほどするとさなぎになる場所を見つけるためにかなり遠くまで移動します。



適当な場所が見つかったら、一日かけて、さなぎになります。10日ほどで成虫に羽化します。



成虫は、花の蜜を吸い成長します。やがてオスとメスが交尾をしてメスがミカン科の木に卵を産みます。5月中旬から2世代目の産卵が始まります。